

二〇二〇年四月三日

露天湯の湯気にこもりし声朧
バイバイをして幼子の雛納め
野路うらら地蔵の口の開きしまま
葱坊主背比べして畝埋む

愛正

こすもす

もところ

菜々

二〇二〇年四月二日

花万朶文化財なる女学院
遊園地跡に名残の桜かな

はく子

素秀

二〇二〇年四月一日

ふらここの高みに海の風匂ふ
花散らす程にはならず小糠雨
石畳ほつほつ濡らす花の雨

そうけい

たか子

菜々

二〇二〇年三月三十一日

子を抱く観音像へ花吹雪
観覧車さくら吹雪の高みへと
野良猫もうち仰ぎをる花堤
連翹のひと枝貫く四ツ目垣

菜々

智恵子

なつき

愛正

二〇二〇年三月三〇日

人影のなき大寺の桜かな
黒潮の岬鼻に佇つ夕遍路
着陸の尾灯おぼろに明滅す
江ノ電の窓に貼りつく花吹雪
木蓮の白の浮き立つ小雨かな

三刀

素秀

宏虎

智恵子

たか子

二〇二〇年三月二十九日

有明の日差し広がる大千潟
産湯なる二の井三の井苔青む
家籠る日や白粥と花菜漬
園庭の大きき日溜りタンポポ黄

やよい

なつき

うつぎ

菜々

二〇二〇年三月二十八日

春寒の淀を眼下に水難碑

菜々

毎日句会みのる選・二〇二〇年四月五日